

4) 日本作業療法士協会会員管理システムの稼働開始について

1. システム開発の背景

これまで「会員管理システム」、「生涯教育システム」等を会員向けに提供してきたが、それぞれを必要に応じて、分離・独立したサブシステムとして構築し改修してきた。そのため、システム全体を統合し、データベースを一元化することが必須の課題となっていた。

また、システム化導入時に比べると、コンピュータの技術・言語・環境等が格段に発達しているため、老朽化した当システムを全面的に刷新することによって、将来的に予測される会員規模と情報量にも耐えうるシステムと、事務作業の効率化、運用コストの圧縮、現在の協会事業にマッチした機能を実装することによって会員の利便性の向上を図ることが大きな課題となった。

さらに、BCP（災害等を想定した事業継続計画）の観点、システムを都道府県作業療法士会と共有し協働する観点からも、現在のローカル環境に置かれているシステムを完全Web化することも重要な目標となり、開発を行ってきた。

2. システム開発の目的

- ①サブシステムの分離・分断状態 ⇒ システムの統合、データベースの一元化
- ②システムの老朽化 ⇒ 最新技術を駆使し、最新機能を実装したシステムへの刷新
- ③ローカル環境の脆弱性 ⇒ 完全Web化

- データの信頼性の向上
- 事務作業の効率化
- 運用コストの圧縮
- 会員の利便性の向上

3. 2024年度定時社員総会後から現在までの進捗状況

・2024年5月

2024年度定時社員総会において、新システムリリースについて山本会長およびBIPROGY株式会社安嶋本部長・他より正式に延期に関する説明とお詫びが行われた。

・2024年6月

システム開発の仕切り直しを行うために、BIPROGY社の体制が刷新され、新メンバーと今後の進め方について検討を開始。これまでの課題のヒアリングを行い、そこから問題点を抽出してそれに対する対応策を検討した。

・2024年7月～9月

不十分だった要件定義の見直しを実施するとともに、これまでの問題点に対する対応策をBIPROGY社とともに実施した。

・2024年10月～12月

これまでの問題点に対する対応を行ってきたが、なお多くの障害（設計書との齟齬等）が潜んでいることがわかったため、BIPROGY社に問題の分析と対策の報告を求め、再度設計書通りに最新のプログラムができあがっているかの確認と修正の対応を行った。

・2025年1月～3月

協会側にて新システムが実際の運用に沿ったかたちで稼働するかどうかを確認する問題抽出テストを行い、同時に仕様調整を行いながらプログラム修正を実施した。

・2025年4月～5月

リリース直前の最終受入テストを協会側にて実施し、5月下旬リリースを目標に最終調整に入っている。